

## 松川町リニア中央新幹線建設工事対策委員会〔第20回〕会議録

1. 附属機関等の会議の名称 松川町リニア中央新幹線建設工事対策委員会〔第20回〕

2. 開催日時 令和4年3月28日(月) 19時00分から21時10分まで

3. 開催場所 松川町役場 2階 大会議室

4. 出席者氏名

【松川町リニア中央新幹線建設工事対策委員】※敬称略

小沼哲夫、宮嶋英雄、西元重人、原田貞男、矢澤登、北林昇、唐澤功、下澤洋貞、  
米山俊孝、川瀬八十治、黒澤哲郎、寺沢秀文、松下敏章、熊岡正志、小澤文人、矢澤良一、  
宮下彰、関真由美、松浦善文、小林幸彦、西尾明廣、北原俊秀、寺沢茂春

【JR 東海】

中央新幹線長野工事事務所 杉浦所長、太田垣課長、村中副長、齋藤主任、工藤主席  
// 大鹿分室長 水上室長

【長野県】

飯田建設事務所 リニア整備推進事務所 折井課長、田中課長補佐

【役 場】

宮下町長、岡田副町長、小沢課長、片桐課長補佐、村松主任、田中課長

5. 議題

- (1) 車両モニタリング調査の結果について
- (2) 発生土運搬に係る安全対策工事の状況について
- (3) 移動コンテナ局の設置について
- (4) JR東海からの説明
  - ・大鹿村内リニア工事進捗状況について
  - ・発生土運搬車両の運行状況について
  - ・その他

6. 非公開の理由(会議を非公開とした場合)

—

7. 傍聴人の数

5人

8. 会議資料の名称

- ・会議次第、資料(町作成)
- ・別冊資料(JR 東海作成)

9. 会議の概要

- (1) 開会
- (2) あいさつ

(3) 会議事項

上記のとおり

(4) その他

(5) 閉会

10. 会議録

(唐澤副委員長)

こんばんは。仕事終わりのお疲れのところ、またお忙しい中、今年初めての対策委員会に出席いただきましてありがとうございます。それではただいまから松川町リニア中央新幹線建設工事対策委員会を開会いたします。

(小沢課長)

2番のあいさつということで、黒澤委員長お願いいたします。

(黒澤委員長)

改めまして皆様こんばんは。委員長を仰せつかっております黒澤でございます。本日は年度末というまたお忙しい中、お集まりいただきまして誠にありがとうございます。東京では桜が満開というようなニュースも聞こえてまいりまして、当地でも早咲きの桜がほころび始めてるかなと思っております。

本日は第20回の対策委員会ということでございます。新たな公募委員の方も迎えての会となります。メインは経過報告というような形になるかと思っておりますけども、また忌憚のないご意見をいただく中で、有意義な会となればと思っております。どうかよろしくお願いいたします。

(小沢課長)

続きまして宮下町長お願いいたします。

(宮下町長)

改めましてこんばんは。大変お忙しい中お集まりをいただきました。本日の対策委員会、本当にまずは感謝を申し上げます。またお忙しい中、長野県またJR東海さんも来ていただきましてありがとうございます。年度末で本当に皆さん忙しい中ですが、本日お集まりをいただいたのは報告というところもございますが、令和3年度の最後の今日は会議になるかと思っております。思い起こせば、運搬ルートの決定に際しましては、現委員の皆様には大変ご理解とご協力をいただいて、何とかルートの決定に至ったということ、改めて感謝を申し上げたいということもありまして、本日はお集まりをいただきました。コロナ過で、町内でも少し発生者が出ているような状況でございますので、気をつけながら進めさせていただきたいなと思っております。また、今後もまだまだ越えなければいけないハードルもあると思っておりますので、また新しく公募委員になられた皆様のお力も借りながら、先に進めて参りたいと思っております。本日はよろしくお願いいたします

(小沢課長)

続きましてJR東海より中央新幹線長野工事事務所 太田垣課長お願いいたします。

(JR 東海/太田垣課長)

皆様こんばんは。JR東海中央新幹線長野工事事務所で担当課長をしております太田垣と申します。所長の杉浦も出席する予定ですが、前の会議が長引いておりまして、遅れて出席することをお詫び申し上げます。

まず、お集まりの皆様におかれましては、日頃より弊社のリニア中央新幹線の事業にご理解ご協力賜りまして誠に感謝申し上げます。最近、私共のトンネル工事において労災が続いており、皆様には本当にご心配をおかけしているところでございます。弊社といたしましては、繰り返し発生していることを重く受け止めており、原因を調査して再発防止に努めていく考えでございますので、よろしくお願いいたします。今日は、最初にこの場をお借りして、これらトンネル工事の労災の概要についてのご報告をさせていただきたいと思っております。

さて、大鹿村から伊那インター工業団地への発生土運搬については、昨年10月25日から開始しております。沿道地区の皆様にはご迷惑をおかけしておりますが、今のところは、特段大きなトラブルなく順調に運搬させていただいているかと思っております。4月から、運搬台数を本格化させていただき予定でございますが、引き続き、沿道地区の皆様のお声を聞きながら、安全第一で発生土の運搬を続けていきたいと考えております。引き続きのご理解ご協力をどうかよろしくお願い申し上げます。

(小沢課長)

続きまして、長野県より飯田建設事務所リニア整備推進事務所調整課の折井課長お願いいたします。

(長野県/折井課長)

皆様、改めましてこんばんは。私、リニア整備推進事務所で調整課長をしております折井克壽と申します。委員の皆様には日ごろから長野県の建設行政にご理解ご支援を賜っておりましてこの場をお借りして厚くお礼を申し上げるところでございます。また、当所が担当しておりますリニア中央新幹線の調整業務にも日ごろよりご協力いただいている事に対しても重ねてお礼申し上げます。

さて、本日の委員会の内容でございますが、お手元にお配りされている次第の通りとなっておりますけれども、先ほどから町長さんそれからJRさんのほうからご説明ありましたけれども、昨年の10月から皆様のご理解ご協力によりまして伊那インター工業団地への運搬が開始されておりまして、現在のその状況それから今後の計画についての説明という事でございますので、その説明を十分お聞きいただきまして何卒今後ともよろしくできればと考えております。県といたしましても、この事業をしっかりと進めるために松川町さんと連携・協力させていただいて調整を図ってまいりたいと考えておるところでございますので、本日はどうぞよろしくお願いいたします。

(小沢課長)

本年 1 月 1 日より 2 年間の任期で、公募委員として委員会に参加していただく御 3 名さんの方の紹介をさせていただきます。西尾明廣様、北原俊秀様、寺沢茂春様、以上の 3 名の方でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

これより会議事項に入りますけども、対策委員会設置要綱第 5 条に会議は委員長が議長となるということから、黒澤委員長の進行でお願いをいたします。

(黒澤委員長)

それでは、司会を務めさせていただきます。次第に沿いまして進めてまいります。

3 番の会議事項であります。(1) 番車両モニタリング調査の結果についてということでお願いをいたします。こちらは事務局の方からお願いします。

(1) 車両モニタリング調査の結果について(片桐係長説明)

(黒澤委員長)

報告をいただきましたが、ただいま JR の所長さんがお見えになりましたので、ここで途中ですが、一言ご挨拶をいただければと思います。

(JR 東海/杉浦所長)

皆様こんばんは。遅くなりまして大変申し訳ございません。

3 月 1 日から JR 東海 中央新幹線長野工事事務所長を務めております杉浦禎信と申します。よろしくお願いいたします。

本日、長野県の方へ先日発生した労働災害の対策や安全管理体制について、原因を究明し対策を致したというご説明を 17 時過ぎまで行っており、遅くなったことをお詫び申し上げます。

まず本日は、我々の方からも今の進捗状況等を説明させていただける機会をいただいたということ、本当にお忙しい中、感謝申し上げます。我々としては、引き続き、地域の皆様とより良い信頼関係を築きながら、安全に施工をしてということを考えておりますので、ぜひ今日もいろんなご意見等あれば承りたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

(黒澤委員長)

はい、ありがとうございました。また、よろしくお願いいたします。

それでは、(1) 番のモニタリングの結果の報告ございましたけども、今の報告について何かご質問等ございましたらお願いしたいと思いますがいかがでしょうか。

(寺沢委員)

モニタリング大変ご苦労様でございました。私が疑問な点をお聞きしたいと思います。

JR に通知の上で行ったということを聞いておりますが、そこらへんはいかがでございましょうか。

(黒澤委員長)

モニタリング調査、JR さんに連絡した上でやったかどうかという事で。

(片桐係長)

この調査につきましては、実施日はJRの方には報告はしておりませんので、いつやったかは、JRは知らないという状況です。

(寺沢委員)

わかりました。じゃあ1つずつお聞きすると時間がかかりますので、3か月に1回程度ということで聞いております。それでは非常に少ないということでもあります。それから騒音機器を使っての調査はぜひやっていただきたいわけですが、目で見るとか体感だけで行ったというふうに聞いておりますが、それでは事実関係というか、本当のところはわからないというふうに思いますので、ぜひそういう機器も使って、3か月に1度と言わずに1か月に1度、あるいは役場職員が行うのではなく委託でやるとか、そういった客観的に見れる方をですね、ぜひお願いしてやるべきだと思いますがいかがでしょうか。

(黒澤委員長)

3点ほどご意見いただきましたけど、それでは小沢課長。

(小沢課長)

ありがとうございます。今回に関しましては、あくまでも車の運転マナーという形でありますので、騒音とか振動の関係、それに関しましては検討していきたいと思っております。

それから3か月に1回、年4回としたのは、今回それぞれの期間で運搬台数、それから運搬方向も変わるということがありましたので、そのような形にさせてもらいましたが、なにぶんにも職員がやることでありますので、他の仕事を一旦止めてもらってこちらをお手伝いしてもらおうという形になりますので、3か月に1回、年4回という形にさせていただきました。

また公募の関係で誰かやってくれる人という形で考えましたが、そのようなご意見もいただきましたが、やはり公平公正な目で見てもらえる方をお願いするという事の中で、今回は時間がなかったので職員の方でやらさせていただきました。またそれに関しましては、検討していきたいと思っております。

(寺沢委員)

はい、ありがとうございました。役場の皆さんがやるというのは公平公正であるかという事はちょっと言い切れないと思います。

それから、機器を使ってやるのは当然のことでありまして、具体的なあるいは科学的な裏付けがなくてはならないものが、そういった形では非常に残念な形という事になります。それだけはぜひ今後、やっていただきたい。役場の皆さんは忙しいからと言ってそういうふうになってしまったという。これは単なる言い訳でございます。ぜひ、きちっとした準備の元にやっていただきたい。しかも1か月に1度は最低やると。台数が変わるとか変わらないとかの問題ではないと思います。ぜひそのようにやっていただくように要望いたします。

(黒澤委員長)

要望ということでいただきましたが答弁ございますか。小沢課長。

(小沢課長)

ご意見、ご要望ということで承らせていただきます。よろしくお願いいたします。

(黒澤委員長)

他にございましたらご発言お願いしたいと思いますがいかがでしょうか。

(北原委員)

それでは2点ほど伺いをいたします。1番最初この運搬が始まって約1週間くらいでしたか、説明会の折にも表示という背番号、ゼッケンというような表示を書面の上で確実に車に付けますというJRさんのご説明を受けました。そのうえに自分なりに大型に乗っておりますので、常に見る位置は一般の乗用車に比べると非常に目線が合うわけです。その後にしばらく経った時に、その表示を見せないということではなくて、載せてはあるけれど見えない位置に置いてあるということ、直接大鹿の事務所の方に連絡をさせていただきました。その時に改善をしますという申し出がありました。その電話を受けた方にも言われましたが、名前もちゃんと控えております。で、今に至りまして、ここ一気にダンプが増えてきました。北は青森、西は神戸、石川県等々からチャーターの車が山ほど来ております。そうした車を毎日見る中で、そうした指摘をした車の会社は、一切今に至っても変わっていません。なぜかと言うと、大型の運転席の正面に高森工区へ運ぶ車、伊那へ運ぶ車、地元の車はちゃんとこれを張り付けているんです。フロントガラスの正面に。登録車両が全部そこではっきり把握ができます。ところが、「フジセイ」と申しあげますがチャーターの車。これは登録が岐阜ナンバーがあり、浜松があり、小牧があり。同色で同型の車で来ている車は、一切ダッシュ板にただ置いてあるだけ。先週に至っては3回ほどこれすらも、表記が置いてない。こういう現実を私は実際見ております。やっぱり一つ一つは地元の方に寄り添うという意見も前々からも言っているし、今日新聞社の方もおられるけれど、ずっと信濃毎日新聞の社説にどの文章を読んだって、JR東海さんは地元寄り添うということだけで、その後が寄り添ってくれないという意見がほとんど書かれています。ですから、信頼しているのは一つのそういうことを裏切ることが、あとあと不信感を持つということに一つなるのではないかと思います。

あと、速度超過の件でもそうですが、GPSをつけて車を走らせていると思いますが、やっぱり65キロという車両もいれば60キロを超過しているような車も、裏をついてきてもわかります。これはどういう形で対応されておるのか。これを何故言うのかといいますと、先般東名高速で追突事故が起きて亡くなったという事例の裁判がありましたね、第3走行車線で大型が停止したためにこの事故が発生したという裁判の弁護士の話がありましたけども、第3走行車線は80キロという走行です、大型に関しては、だけど90キロで走っておったという事が問題だという事を弁護士は言いました。その10キロの差というのは、警察は取締まりの範囲ではないという事ですね。通常我々もそうですが、そういう走行の10キロというのは誤差としてみますので。ただ、それを一般道でされるとやっぱり威圧があるんだろうなと思います。自分が乗っていてそう思うんですから。そういうところをどう対応されていくのか。

それと4月1日、道交法が一部改正になりますよね。ご存じだと思いますが、安全運転管理者は飲酒運転におけるチェックが義務付けられましたね、4月の1日からです。だから作業が始まる前のチェックはどうされているのか。あとそれから個人の車、地元における個人の車はどうされておるの

か。どこで飲酒チェックをするのか。その点をJR東海さんへお聞きしたいと思います。以上2点です。

（黒澤委員長）

はい、表示の関係、スピード調査の関係、飲酒チェックの関係等3点ほどあったかと思いますが、JRさんよろしくお願いします。

（JR東海/水上分室長）

ご質問、ご意見ありがとうございます。私、大鹿分室長の水上でございます。まず初めに表示でございますが、おっしゃられている通り、私どもの車両は前後と片サイドにステッカーを、ステッカーを貼れない場合はボンネットに掲げて、第三者、一般の方から見やすい所に見せるということを行っております。ただ今ご指摘があった点につきましては再度指導してまいります。不備があるという点についてはお詫び申し上げます。再度徹底させていただきたいと思います。それから速度の関係についてですが、今私どもの工事用車両・ダンプにつきましては、いろいろと走る道路によって、松川町では街中30キロで走行したりしております。大鹿に行く小渋線につきましては、中川村と大鹿村と通っていくわけですが、制限速度としては中川村内40キロ、大鹿村内60キロというところですが、私どもの車両は、それにマイナス5キロ、10キロなど安全運転で指導しているところがございますが、先ほどの65キロという点は申し訳ございません。もしそういった車両がおりましたらお詫び申し上げたいと思います。再度、制限速度の徹底をさせていただきます。

それから安全運転管理者のチェックについてですが、私どもの飲酒運転に関する点につきましては、毎朝運転手等に対してチェックしているところを、実際に指導している職長さんやJVの管理者から聞いております。4月1日以降の体制につきましては、申し訳ございませんがまだ確認できておりませんので、4月1日以降どういう形でやるかというのは改めて確認させていただきたいと思います。

（黒澤委員長）

北原さんいかがですか。よろしいですか。ご発言あればどうぞ。

（北原委員）

個人事業者の場合はどうなさるつもりですか。もう車に乗って自宅を出る段階から、要するにそれをチェックする機能が無いんですよ。なぜこれを言うかっていうのは、これだって相模原の例の飲酒の事故があったじゃないですか。物体がでかいだけに事故を起こすと大変なことになるってことを言うわけですよ。だから松川町を通過する車両に関しては、今それでなくても地元で以前からダンプが少なかれ走っている訳ですよ。地元の特にご婦人方なんかそうだけど、ダンプはみんな一緒だっていう。だから何かそういう事故はないっていうことは言いきれないけども、何かそうしたものを、さっきの表記の件もそうですよ、何かちょっとしたものを、こう通報するにも、やっぱりそれはやるべきであって。豊丘工区のダンプは側面もついてますよ、前後、側面、運転席と助手席の。で、下條へ運んでますよ。もっと言えば県の松川ダムから出している、これはもう仕事が違いますけれど、県の飯田松川から出している、要するに残土ですね、これに関しては神稲建設が背中に大きな旗を、旗というかもメッセージを架けてます。誰が見たってあそこの仕事をしてるんだっていうことが

分かるわけですよ。こと、JR東海さんのリニアの関係の輸送に関しては、知っている者がぱっと見ればわかる形のものは本当に少ないですよ。我々はそれをすぐ見えるから言うだけで、一般の人がどうですか見てわかりますか、ダンプの区別が。ブルーシートをきちっと裏まで、高速の走る車が砂利が飛ばないようにくるんでる姿はこれは適正でしょう。

こぼれないでやっている人達は、ダンプのドライバーっていうのは、シートが傷まないために立てていきます。本来は寝かして砂を舞わさないようにしていくのは本来の姿ですよ。でもこれすらもやっぱり出来上がってない事ですよ。細かく言えばそういうふうになっていくので、やっぱり地元でもそういうふうにいるやつかいいるんだということだけはやっぱり熟知していただきたいし、私が今度はJRさんと同様に松川町にお願いしたいのは、各地元で業をされている例えば大林建材さん、信濃建材さん、大鹿砕石さん。こうやって挙げていけばこの飯田下伊那地域で相当なダンプの数があるわけですよ、ダンプもそうだし、生コン車もそう。各会社に町内含めて安全運転を徹底していただく旨の文書はやっぱり出すべきであろうと、4月1日以降について。どうでしょう、そういうところもやっぱり事故が起きてからでは対策ではないんです。事故を起こす前の対策をしないと意味がないと思うので、それだけとはにかくもう町を含めてやっていただきたい。これはもう我々住民の思いです。以上です。

（黒澤委員長）

貴重なご意見いただいたかと思えますけど、JRさんの方がいかがですか。

（JR東海/水上室長）

貴重なご意見ありがとうございます。通勤車両についてはどうやってチェックするんだ、というところは検討させていただきますが、今の通勤車両につきましてもステッカーを貼って、中央新幹線の車両であるという認識で通勤のダンプを走行させているところです。こういった地元の方々からのご意見を今後どのように再度指導していくのか、常に事前の対策、起きてからでは遅いという事は、最もだと思っておりますので、事前にこういったことができるかというのは、改めてJVやダンプの運転手の方々と一緒にまたしっかりと検討していきたいと思えます。

（黒澤委員長）

ご意見いただいたわけですが、これから検討するっていうことかと思えますので、4月1日からっていうこともありますし、その対応、どういう風に対応していただくかっていうのは、町の対策委員会の事務局の方にご報告いただきたいと思えますけどもよろしいですか。

（JR東海/水上室長）

はい、承知いたしました。早速確認をして、ご連絡させていただくようにします。

（黒澤委員長）

北原さんそんな形で、報告を事務局の方にしていただくようにいたしますので、事務局の方にまた結果問い合わせただければ、答えられるようにしておいていただきたいと思えます。

それでは事務局、町の方での各業者さんへの対応について、お願いをいたします。



(小沢課長)

ありがとうございます。松川町のほうでは中川村と大鹿村と発生土運搬安全対策連絡協議会っていうのをやっております。前回やりましたけども、その時にも小渋砂利組合、それから大鹿碎石と来ていただきまして、お話をさせていただきました。今回も4月にはまた新しい担当者になりますので、中川村と大鹿村と一緒に会議を開きまして、また今言ったような形でやりたいと思っています。それからそこに呼ばない大型の方たちもいらっしゃいますので、そこらへんも踏まえまして検討して、早急に安全運転に対する文章をお配りしたい、対応していきたいと思っております。よろしく願いいたします。

(黒澤委員長)

そんな対応していただけるというお答えでしたけどよろしいでしょうかね。それでは他に、ご発言ございましたらお願いをしたいかと思っておりますけども、いかがでしょうか。よろしいですかね。それでは、モニタリングの方の調査結果の報告については、以上にさせていただきたいと思っております。

続いて2番目、発生土運搬に係る安全対策工事の状況について、ということでございます。小沢課長。

## (2) 発生土運搬に係る安全対策工事の状況について (小沢課長説明)

(黒澤委員長)

安全対策工事の進捗状況について報告をいただきましたが、これについてご質問等ご発言ございますでしょうか。

(寺沢委員)

前にお聞きしたところによりますと、二つの道路の工事があるわけですけれども、3月末までに完成するということが確かあったと思うんですが、私の認識違いであるのかどうか分かりませんが、それが上半期にずれ込む、そしてなおかつ中央線というか、新井を通過してそれから役場前を通過して東浦へ抜けてくってという台数が増えるという、それはお聞きしておるところですが、なぜそのような状況になったんでしょうか。大きな大変な変更であり、いつ変更されたのか、そこらへんをお聞きしたいです。

(黒澤委員長)

当初計画とのずれについてということでございます。小沢課長お願いいたします。

(小沢課長)

前に説明させていただきましたのは、3月までに何とか行いたいということを説明をさせていただきました。これに関しましては、色々な許可申請とかありまして、少し時間がかかったのは正直なところでございます。こちらが少し段取り不足だったということも否認しません。大変申し訳ございませんでした。この中で今現在、4月からは40台・40台という事でありましてけれども、それらも踏まえましてこの後の説明がありますが、JRさんのほうでも色々協議をさせていただいている状況で

ございます。改良に関しましては、3月までにできるだけ進めたいというご説明だったわけではありますけども、それが申し訳ございません、思い通りにいかなかったというのが現状でございます。

(黒澤委員長)

寺澤さんどうぞ。

(寺沢委員)

物理的な問題、それから手続き的な問題、色々多々あろうかと思いますが、それによる被害というか影響は甚大でございます。これは手続き、あるいは物理的な時間とかそういったことは当然あって遅れたというふうには考えますが、そういったことを考えますと、JRさん、町の事業ではあるかもしれないませんが、非常に大きな問題であると思いますので、そういったことで町の責任とJRさんの責任はどのように分かれるかわかりませんが、本当に住民に、先ほどの北原さんもおっしゃいましたけども、本当に住民に寄り添っているのかということは本当に疑問でございます。私は、話が長くなってすみませんが、リニアが通ることを反対している訳ではございません。松川町が、住民の皆さんが被害を受けるようなことがあっては、もちろん多少の問題は別として、大きな被害を受けるようであっては絶対ならない、そういうふうを考えておりますので、国が進め、そしてJRが実際に行う事業でございますけれども、そこらへんは一部の者が犠牲になるということは絶対あってはならないと思いますので、ぜひ住民に寄り添うという形で、遅れたものは本当に今更言っても出来ていないものは出来ていないということで残念ではありますが、そこら辺の認識を本当にお考えいただいて進めていただかないと、我々は本当に困ります。よろしくお願いします。

(小沢課長)

ありがとうございます。住民の皆様にご寄り添って今後とも事業を進めて参りたいと思います。よろしく願いいたします。

(黒澤委員長)

それでは他にもご発言ございましたらお願いしたいかと思いますが、いかがでしょうか。工事の関係でございます。できる限りスムーズに早く完成を目指してやっていただくということで、町の方もしたいと思います。また護岸線のほうについては、工事個所決定次第ということになっておりますけれども、こちらの方は早期完成という形になっておりますけれども、目的的なものはどんな感じなんだろうかね。洞新線は上半期っていうことになっておりますけれども、早期完成っていうのは、どのくらいを考えておるのか、お答えいただければと思います。

(小沢課長)

護岸線に関しましては、現在JR東海の方で測量をして、今計画を立てているところでございます。町の方でも、その計画が決定次第またチェックさせていただきまして、どこの現場をやるかということをご把握したいと思っております。工事に関しましては洞新線と同じく9月末を目安に進めて参りたいと思っております。ただ工事が、9月いっぱいまでという形でやりたいんですが、必ずそれで終わるのかって言ったら、そうじゃない場合もありますので、9月末が目標という形でご説明させていただきたいと思っております。護岸線と洞新線どちらも9月末を目安にという形をお願いしたいと思っております。

(黒澤委員長)

目標、目安ということでございますけども、出来るだけ早くということかと思えます。またよろしくお願ひしたいかと思えます。それでは、熊岡委員お願ひいたします。

(熊岡委員)

熊岡であります。町道護岸線の地図を見せていただいております。松川町の南って書いてあるところなんですけど、これ結構狭くなっているんですが、ここの改良っていうのはないんでしょうか。

(黒澤委員長)

改良箇所決定次第ということですけども、具体的なお質問かと思えますけども。小沢課長。

(小沢課長)

この路線に関しましては、県道の路線になります。改良するような形で進めておたわけですが、少し用地交渉の方で難航しております。今回に関しましては護岸線のみという形でお願ひしたいと思えます。よろしくお願ひいたします。

(黒澤委員長)

ということは、この県道との交わる部分の交差点改良は、用地交渉が難航してて、今のところ改良はされない形になるということによろしい訳ですか。そういうことのようにですが。熊岡委員どうぞ。

(熊岡委員)

ここ、ご存じのとおり狭くて、陰気ったいところなんですよね、言葉が悪いけども。ここで渋滞だとかそんなようなことも心配されるんで。県の方も見えているんでぜひ一緒に進めていただけるのが。ちょびちょびやるっていうのも手なんだろうけども、これ生活道路じゃないんですよ。そういう意味じゃ産業道路なんだから、思い切ったことをやらないとだめだと思うんですね。そんなことでぜひ進めていただきたいってことを要望したいと思えます。

(黒澤委員長)

県道ということで、折井課長。

(長野県/折井課長)

はい、長野県リニア事務所の折井でございます。ご要望ありがとうございます。この箇所につきましては町の小沢課長さんからもお話ありまして、一応今回護岸線に合わせてという話もございましたけれども、ちょっと用地のほうが大いぶん難航しているというところでございます。県におきましては町のほうと連携させていただきながら出来る限りの事は進めていきたいと考えておりますが、ちょっとここで護岸線の例えば半年間の整備に合わせてできるというお約束はできない状況になっておりますのでご理解いただければと思えます。

(黒澤委員長)

熊岡委員よろしいですか。

(熊岡委員)

要望なんですよ。用地交渉ができとる、できとらんってそんな事は、やればの話でしょ。工事のやるなんて時は、必ずそういった障害ってあるんですよ。これもう初めからしないって事なんですか。

(小沢課長)

松川大橋南という交差点の所からですね、今言った松川橋南の、松川橋の所までの改良のペーパーロケーションって言って、図面を県の方では作ってくれてありました。その関係をもって用地交渉に臨んだんですけども、今現在はちょっと用地の方が難航しているという形です。計画自体は県も一緒になって考えてくれておりましたけども、ちょっと今すぐここをどうこうするというような計画は今のところはないんですが、要望としてまた県の方にも町の方からお願いしていきたいと思っています。よろしくお願いいたします。

(黒澤委員長)

ここは、今熊岡委員さんからは、狭くて安全面からも問題があるんじゃないかということだった訳ですけども、ここを使ってJRさんも搬出をするという事ですよ、そういった面で問題はないんでしょうか。JRさんの考えはいかがですか。

(JR 東海/ 太田垣課長)

JRの太田垣です。今回の護岸線の改良範囲について、全部をやるのはちょっと難しく、車両のすれ違いや滞留するような所に待避所を設けていくという所で考えております。出来る範囲で改良させて頂くという所でございますので、出来るかどうか検討したいと思ってもなかなか難しいかなと考えております。

(黒澤委員長)

護岸線のその部分改良はいいんですけど、今ご指摘の、県道との交差点の部分の安全が非常に厳しいんじゃないかっていう意味を含めてのご発言かと思うんですけど。

(JR 東海/太田垣課長)

まずは、的場橋の所もそうですが、最初は走らせてみて様子を見ての対応、必要により誘導員を立てるなど考えていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

(黒澤委員長)

道路改良の方は、なかなか難しいっていう中での通行という事で、安全確保の点が非常に課題になってくるかと思っておりますけども、その所はJRさんも含めて、また対応をしっかりとお願いしたいかなと思っておりますけど、よろしくお願いいたします。

他にご発言ございますか。はい、北原さん。

(北原委員)

その護岸線の件で聞きたいことが1点ありまして、下の平石橋という橋がありますが、この橋の下流10メートルのところには横断が入っています。これ去年の豪雨っていうか出水において、横断の下にもう完全に抜けてしまったという形ですね、昨年度並みの水量が出ると恐らく平石橋のピアは一本元が淮げるだろうと。これ町の方はご存じですかね、建設課。仮設で何かとりあえず押さえてあるようですが、工事をする様子はない訳です。そこに大型の車が集中するという事になれば、当然これ一時停止をする場所は橋の上になる訳です。上から車が来る、こっちから来る、当然そのものがあり得るだろうと。そうすると果たして橋の、要するにそういう状況の下流ちょっとの所なんです、川の荒れ方によっては橋の落下っていうことも当然想定をしておかなくちゃいかんだろうと思います。何かの折にぜひ車でお通りいただくと分かると思います。それと今熊岡理事が申しした所ですが、通常我々大型でたまに通るんですが、正直なところ大型1台やっとです。もう乗用車1台が来ても、すれ違う事は一切出来ません。特に冬の場合は、上の国道とか農免から下りてくる、わずかであるんですが、下り坂になっている所、乗用車が凍結した形で滑ってきます。それと大型は恐らく2デフという車両で上がっていくと思うんですが、一時停止した場合同じように凍結という形をとるかという形になりますと、非常に危険な場所であるっていう事ですね。信号機に向かって上りになりますので、スリップっていう事は想定されると思います。ですのでJRさん、言ってることは分かっていただけだと思うんですが、宮下町長にもお話ししましたが、いっぺん大型に乗って走ってみてくれるって訳ですよ。横に乗せてもらってですね、今の運行経路を全て走られると、これは予想以上に危険な場所があるとか、それが自分の目に入りますので、私は決して今のダンプの運転手をいじめるつもりはありません。あんな旅から来て儲かるはずがないので、あんなに車動かしても。そんな中で頑張っていく姿は応援をしてやりたいと思うけども、町の住民はそれに巻き込まれたくないという事ですね。要所要所でやっぱりそういう注意点って所は、地元の間がが一番よく理解して分かっているはずなので、立ち合いをしていただいてそういう所を見ていただくと、これは無理かなってというのがわかると思います。ですから県の方も同様ですよ、予算付けられませんし、そんな所とかやりませんって意見ではなくて、それを協力してもらおう中では、例えば1メートル2メートルでも幅員をとるだけでも違う訳ですから。現状今では、上から車が飛び込んでくる姿が見えないんですよ。ちょっとしたカーブになってるんです。だから一番怖いのは冬の時期です。あそこを通っておられる皆さんは分かると思うんですが、ご意見どうして出してもらえんでしょうかね皆さん。以上。

(黒澤委員長)

平石橋の県道の、松川橋南の交差点からの部分2点について詳しくご説明、ご意見いただいたんですけど、町長の方から。

(宮下町長)

すみません、今日担当課がおらんものですから私の方からお話させていただきます。片桐松川の平石橋のすぐ下の所が豪雨の時に抜けて、その日のうちに国の天竜川上流河川事務所の副所長にとんできていただきまして、確認をしていただいております。私が聞いているのは、あの中で一番、いの一にやるという事を聞いておりますので、そこは言質をとっておりますので。おっしゃる通りだと思います。早急に工事していただくよう頼んであって、向こうも承知して最初にやるという事はお約束をいただいているという状況でございます。お願いいたします。

(黒澤委員長)

松川橋南の所からの関係。JR。

(JR 東海/太田垣課長)

非常にご心配されている場所だということは承知した上で、ご提案でありましたダンプにも乗って確認するという事も進めて参りたいと思います。よろしくお願いいたします。

(黒澤委員長)

よろしいでしょうかね。それでは、安全課題になっておりますので、ぜひ対策を講じていただいでですね、運行していただくようお願いをしたいと思います。9月末を目途という事で準備をしていくということでありまして。これ9月末、要するに完成すれば、ここを使った発生土の搬送が始まるという事。そういう事でよろしい訳ですよ。完成次第。小沢課長そういう事ですよ。

(小沢課長)

護岸線に関しましては、今現在もダンプが通っている状況でございますので、工事をやりながら、もしかしたら通す場合も発生するという事でありまして。工事が終わった後で通すのではなくてですね、片側通行と信号機を付けてでも通す場合もある可能性はあります。

(黒澤委員長)

そんなかたちでの通行という事になるようですので、安全だけはしっかり確保していく中でお願いをしたいかと思っておりますけど。ほかにご発言ございますか。よろしいでしょうか。

それでは次のテーマに移らせていただきます。(3) 番の方に入ります。移動コンテナ局の設置についてという事でありまして。事務局お願いします。

### (3) 移動コンテナ局の設置について (片桐係長説明)

(黒澤委員長)

移動コンテナ局ということで、大気汚染の状況の測定という事でございます。何かご質問等、ご発言ございましたらお願いいたします。寺沢委員。

(寺沢委員)

先程の振動、騒音の事で要望という事を出したんですけども、ここの位置へ、振動と騒音一緒につけたらいかがでございましょうか。ぜひそう言ったことをJRさんにお金を出していただいて、委託で、同時にその場所で騒音、振動をぜひやっていただきたいと思っております。

(黒澤委員長)

騒音、振動についての測定については、事務局の方は何か予定はありますか。

(片桐係長)

ご意見ありがとうございます。振動、騒音につきましては、そこまで考えておりませんでしたので、JRさんと協議させていただきたいと思います。ありがとうございます。

(黒澤委員長)

JRさんの方は、振動とか騒音については対応できるんでしょうかね。

(JR 東海/太田垣課長)

私どもとしては、町との確認書の中で騒音・振動については測定をする、場所については協議するとなっていますので、それに基づいて検討していきたいと思います。今のところは、七椏神社前で走る前に測定を一回したんですけども、今後定期的にやっっていこうかと思っておったところです。こちらのほうがいいという事であれば、こちらにするという事も可能かと思しますので協議させていただければと思います。

(寺沢委員)

予定は七椏の所であるということですので、それはぜひやっていただきたいんですが、中央道、伊那方面へ行くダンプは、結局観光センターみらいの横、松川インター下の交差点下にあるんですけども、そこも要するに上りで通って行きますんで、ぜひ先程からくどい話で申し訳ございませんが、人に寄り添うという考え方からいけば、ぜひですね、そこへも一緒に付けていただいて、上と下とまとまって出来るって事になれば、きちっとおさえたという事になりますので、是非ともよろしくお願いします。

(黒澤委員長)

要望という事で、町とJRさんの方で、また協議をして対応をお願いしたいと思います。ほかにご発言ございますか。よろしいでしょうか。また何かありましたら最後に受け付けたいと思いますので、次へ進めさせていただきます。(4)番の方に入って参ります。JR東海さんからの説明という事で資料が出ておりますので、よろしく願いいたします。

(4) JR 東海からの説明 (JR 東海/太田垣課長説明)

(黒澤委員長)

説明をいただきましたが、只今の説明についてご質問等ご発言ありましたらお願いいたします。はい、西尾さんどうぞ。

(西尾委員)

説明ありがとうございました。昨年の6月ですかね、町民体育館の住民向け説明会で今の質問をさせていただいたのは私なんですが、当時平永所長の回答は、片方を駒ヶ岳のスマートインター使うと、最後の1台が、帰って来れないんですという説明があったんですね。それで、最後の1台だったら、その分1台だけ後回しにしたって1週間程度工期が伸びるだけの話なんで、ダンプの実走試験をやられたって言うんで、そのデータを示していただけないでしょうかとお願いしたら、持ち合わ

せてないんで、また報告させてもらおうという話であったんですね。で、なかなか出て来ないんで、町のリニア対策課の小沢課長の所に 2 回程、この間督促させていただいて、ようやく出てきたと。こんな流れなんです。ちょっと1つ良く分からないのは、当時、平永所長がご説明した最後の1台が帰って来れないんですって言うのと、今、最後の5台が帰って来れないって言う、違いって何なんでしょかっていう質問ですが。

(JR 東海/太田垣課長)

ご質問ありがとうございます。当時、平永が申しました事ですね、私どもの方も確認したら確かに最後の1台と申しておりました。ただ、その時から持っていた資料では、基本的にはこの数字だったものですから説明をする時に、極端な例として、最後の1台と言ってしまったのかと思っております。これは、5台分が間に合わなくなるという事でございますので、この場をお借りして訂正させていただきます。この試験については、実際のダンプではないんですが、普通の車で制限速度で運行して、信号とか色々ある中で確認した結果、松川インターを通れば1時間30分、駒ヶ岳スマートインターを使った場合には1時間45分というデータでしたので、それに基づいてこの当時は検証しておりました。いずれにせよ、最終的には駒ヶ岳 SIC を使う経路で運行させていただいておりますので、ご理解いただければと思います。

(西尾委員)

はい、ありがとうございます。それともう1点、この図表でですね、30台を一つのくくりとして、1日60、延べで30台で2回転させて60台ですかね、往復でいうと120台。今予定しているのは、この倍という事になるわけですよ、要するに。そういう理解でよろしいですか。

(JR 東海/太田垣課長)

今の現場は2ヶ所・2工区あるんですが、積込み箇所が2ヶ所あれば、それぞれで30台、30台の運用をしていければ、30台×2往復×2か所ということで120台行けるかと思えます。実際は、それ以外にも伊那の方で、朝を出発して、最後に伊那で帰るような運用も織り交ぜながら、うまく時間内に120台を運行するような計画を立てて参りたいと考えているところでございます。

(西尾委員)

ありがとうございます。蛇足みたいな話になって恐縮なんですが、当時町民体育館で平永所長にその質問を何故したかっていうとですね、当時は最後の1台が帰って来れないんですってという説明だったんで、そういう事申し上げたんですが、要するにですね、本当に最後の1台だったら、じゃあ29台目で2往復目やめればいいだけの話だと理解したんですね。そうするとですね、今となってはもうルートも決まっているので仕方ないんですが、私は今でも町のと真ん中をダンプが走っている事について反対なんです。それが避けられるという可能性があったのでその質問をさせていただいたんですけれども、要するにですね、先日も太田垣さんと工藤さんとお話させていただいた時に申し上げたんですが、重大事故が起こるとすれば伊那大島駅、それから松川町役場のヘアピンカーブのところなんです、一番可能性があるのが。そこで仮に死亡事故が起きることになると、ルートを認めたのは誰ですかという話になるわけですよ。先ほどから出てますけども、その公募委員の方が熱心に発言されてますけれども、やっぱりそういう事が起きる可能性があるのが、ここのヘアピ



ンカーブですよね。だからここはですね、何としても避けなければいけないという気持ちが私にあったんで、その質問をさせてもらったし、そのデータがあればすぐ示していただけないかと。そうすればですね、リニア対策委員会でも町でも、もう少し客観的なデータに基づいて結論を出せるんじゃないかと。私はリニア対策委員の公募になる時にですね、一応非公開になった時の議事録も情報公開請求している。公開してもらったんで、1回から19回まで全て目を通してはいるんですけど、議事録について。どういう議論があったのかっていうことも大体わかっているんですけど、例えば、理解できないのは、松川町でルートについて、言葉は悪いですがいちゃもんをつけたら他の町から見たらどう思われるかとかですね、要するに人の、他市町村の目を気にしているような発言をなさっている方がいらっしゃるんですよ。それをですね、私の考えとは相容れないんです。我々はやっぱり町民の立場としたら、何がなんでも我々の安全を考える、子供たちの安全と町民の安全のことを第一に考える。他の町村から見て松川町が何となく反対しているんじゃないかなっていうような、そんな考えを持つ必要はない。だからそういう意味で、もう少し早くそういうデータについて詳らかにしていただきたかったなというのが私の考えでございます。長くなって恐縮ですが、以上でございます。

（JR 東海/太田垣課長）

最後の1台と申したところについては、少し極端な説明の仕方をしていたのかなと思いますが、その点については重ねてお詫び申し上げます。私どもとしては駒ヶ岳SICを使う事に方針となってしまうので、それまでのデータの説明は解決してものだと勝手に思って説明をしていなかったところがございます。それから、松川インター大鹿線の伊那大島駅付近のカーブについては、そこはすごく危ないんじゃないかとおっしゃる所は、構造上、確かにそうなのかなと思うところです。私どもとしては松川インター大鹿線の走行については、制限速度を下回る30キロで運行するという計画で進めておりますし、安全には注意し運行してまいりたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

（黒澤委員長）

くれぐれもよろしくお願いをしたいかと思えます。他にご発言ございますか。はい、川瀬委員。

（川瀬委員）

川瀬と申します。今の関連の問題というか60台の件であります。以前議会とも話をした中で、1つのルートMAX40台だよという事で町長にもお願いしてあります。これは今JRさんの方からこういうことで、平均60台引き続き町と対応ということでありますが、まず町の考えをお聞きすると、各沿線の方々、40でMAX120台で動いとった内容であります。これが洞新線と護岸線が開くまでに60台で果たして納得していただけるかっていうところが私は疑問になっておりますので、まずここで町長にお聞きしてですね、JRさんとの対応はどうなっているかをお聞きしたいと思っております。

（黒澤委員長）

工事の遅れという事での影響によるものかと思えますけども、40台が60台になるという所ですが、それじゃ町長。

(宮下町長)

当然住民の理解が得られないとなかなかそこは無理だという話を今回もさせていただいております。それが町の今お願いをしている状況で、今回もそれで今80台というような形にもお願いしてきたところでございます。工事の遅れというのは確かに影響はしておりますが、今後も協議という事になっておりますので、まずは住民の理解が大前提でということと考えております。

(黒澤委員長)

JRさんの方でいいですか。

(JR 東海/太田垣課長)

私どもは、台数が増えていく事について地元の方が非常にご心配されているという事は承知しているところでございます。一方、私ども工事の進捗を考えると、120台/日でも少なくしているところもありますが、この台数を通行する方法を何とか考えなければならないというところで、今日この場で結論という事ではないですが、7月からこういうふうにしていかなければいけないのかなと思っている中で、引き続き、協議させていただければというところでございます。まず4月からは40台・40台の平均で通行させていただき状況を見ながら、また地元の皆様の声も聞きながら、次のステップを考えたいというのが当社の考えでございます。

(黒澤委員長)

川瀬委員。

(川瀬委員)

最近お組合へですね、回覧板を町の方から出されたかと思えますけれども、そこらへんについては今回のようなことうたわれておるかどうか、ちょっと私確認してないんで分かりませんが、基本的には40台を、3ルートで120台っていうのは納得いくという事で、各町民の方説明会、沿線の方々しっかりそこら辺で確認が取れているかと思うんですが、工事遅れとってですね、今9月までという事で、先程説明がありましたんで、最低でもそこら辺は10月以降進める、四半期の三からですね進めるべきだという事で、議会もずっと言ってる部分がありますので、今日今、JRさんの方から60台の説明がありましたけれど、まず住民に説明をするという事で、町長が今おっしゃられたんで、そこら辺をきちっと住民が納得されてからこういう話をするべきじゃないかなというふうに私は思っております。そこら辺についても町の見解、またJRさんの見解をいただきたいなと思っております。

(黒澤委員長)

町長の方からも、住民の理解を得る事が大前提だというお話がありましたけれども、JRさんも町の方も、そのどういう風にして住民の皆さんの理解を得るのかっていうのが、まだ見えてきませんが、当初の計画と変更になるという事でございますので、そこら辺のともう少し。

(JR 東海/太田垣課長)

ご意見ありがとうございます。私どもは10月に第1回目のお知らせ・回覧を回させていただ

ておりまして、そのときから4月より120台/日で運行をしたいという予定は載せておりました。一方で、工事がいつ完成するのかっていうことはございまして、その工事期間中はどうするのかというのは、課題として当時からあったのかと思います。改めて、その課題が顕在化してきたという状況でございまして、いかに地元の方にご理解を得て、通行させていただくかが大事だと思います。これにつきましては、次回に向けて協議させていただき、地元の方にお話をしたり、そういったことで対応をできればと考えております。

(黒澤委員長)

地元の皆さんに説明する機会を設けるといような、そういう事でよろしいでしょうかね。

(JR 東海/太田垣課長)

その辺も含めてですね、町と対応を考えていきたいと思っております。

(黒澤委員長)

JRさんの方としては、町と協議をする中で、理解を得られるような対応を協議していくという事でございます。まだどういう風な形になるかというのは、協議の結果次第という事のようにございまして、そんな所でよろしいでしょうかね。

はい、川瀬委員。

(川瀬委員)

只今、JRさんの方からはお話がありましたんで、しっかりと住民説明ができる方向性、また同じように町の方も動いていただかないと、それは駄目だと思いますので、町長しっかり住民説明できるような体制をJRさんとタッグ組んでいただいてですね、住民、沿線の方々納得するような方向性に持っていただければというに思っておりますので、くれぐれもよろしくお願いいたします。コメントがありましたらお願いいたします。

(黒澤委員長)

町長。

(宮下町長)

当然今も、住民代表である議会の皆様からも強くこれは言われている事でございますので、私共もまずは住民の理解と、また安全の確保という観点で、させていただきます。その中で説明会が必要となれば、私たちも当然一緒になってさせていただきますが、まずは理解を得るために努力をしなければいけないという所が現在の所でございます。よろしくお願いいたします。

(黒澤委員長)

それではほかに、ご発言ございますでしょうかね。はい、寺沢委員。

(寺沢委員)

今の川瀬さんのおっしゃったこと関連するわけですが、要するに町の元へ戻ってしまいま

すけども、私、1月1日に委嘱状をいただいて、公募委員ということでなっておりますけど、本日まで、3月28日まで、この対策委員会は開かれておりません。それはいったいどういう事なのかということ、非常に私としては遺憾で、何でこんなに期間があいておる。今の様な様々な問題は、もっと早くに対策委員会なり、説明会なりをすれば、その時々問題が解決して、それはいろんなさ意見が出て、困るなあという事にはなりますが、それをやった方がかえってスムーズに行くというふうに私は思いますんで、それが大きな問題になると、まずそこを指摘しておきたいと思えます。

それから、秋の中央道、インターへ入ってく時にですね、ここは観光立町でございますので、観光立町というか、梨やりんごのブランドの地域でございますので、インターへ入る周辺はりんご狩り農家、あるいはJAの直売所、いっぱいあるわけございまして、先程の説明では調整中というようにそこに書いて黄色いところが、是非ともですね、ここは調整中とは言わずに、ここはお休みにしていただくという事で、台数の問題を責められとる状況の中で、なおかつそれ申し上げにくいんですけど、これは我々住民の死活問題でございますので、観光で生きていく大きなブランドの松川町が、ダンプの台数が多すぎちゃって渋滞してしまう、実際にやってみなければ分かりませんが、その苦しい状況に追い込まれる可能性が高いという事で、そこら辺を秋の10月中旬から、もっと言えば9月から土曜日はみんな休みにしようと言いたい所ですが、そうはいつでも今の台数のせめぎ合いの中で、住民も譲歩して来ておりますんで、ここら辺の10月中旬から11月いっぱいぐらいは、土曜日はお休みというふうにしていただかないと、観光立町というか、今コロナがだんだんと例えば終息した場合には、ここには大勢の観光客、りんご狩り、松川の交流を求めらるって来る方々大勢来て、インターが、出る方がとても出きれないという状況が、昨今やや減ってはおりますけども、そういう状況になっております。ですから、ここら辺の所もぜひお考えいただかないと松川町は、りんごや梨だけで成り立っておるわけではございません。商業、工業、バランス良く発展させるわけですけども、それは余談でございますけども、是非ともそこら辺をお考えいただかないと困ります。

それから、この表の中では良く分かりませんが、高森町へ行く台数、これは新井の公民館で説明会をお聞きして、そうなのかという事は、新井の皆様の意見が少し少なかったようでございますけども、例えば、生東、生田線を通って、豊丘を通って行くという、そういうルートもあるわけございまして、高森町はいつ終わるのか台数が、止まるのか、そこら辺もお聞きしたいと思います。以上三つよろしく申し上げます。

(黒澤委員長)

それでは、対策委員会の開催の件について、事務局の方で。

(小沢課長)

1月1日の委嘱から本日まで3か月かかってしましまして大変申し訳ございませんでした。1月の時には、コロナの関係がレベル5で会議が開ける状況ではなかったということが一つの原因でございます。それから、今回のような運搬台数の変更に対しましては、お話がなかったものですから3月になって、今回のように至急会議をやりたいという事で、皆様方にお集まりいただいた状況でございます。以上でございます。

(黒澤委員長)

それでは日程調整の関係で。

（JR 東海/太田垣課長）

秋のシーズンの果物の話は、JAの方とかからも、これまでもご意見をいただいております。そういった中で、一方では車両台数の軽量化、あるいは全体として出さなきゃいけない量は一定なものですから、1日あたりの土量が減るとそれだけ工期も伸びてまいります。そういった中で、いろいろと調整し、これまで土曜日休みの日は少なかったんですが、調整の結果、今回少し休みの日を増やさせていただいているというところがございます。いろんなご意見がありまして、逆になるべく工期を短くしてほしいっていうようなご意見もあったりするんですが、そういう中で適切に進めていくのかと思っております。

それから高森町のルートについては、高森町の事業なので私共が答えるのはちょっとおかしいところはあるんですが、いろんな市町村、私共の工事でも大鹿村だけではなく、豊丘村だとか飯田市とかいろんなところでやっているんですけど、そういった中で、今回の高森事業については、今通っているルートで進めさせていただくと考えている所ですので、何とぞご理解いただければと。

（寺沢委員）

いつまで高森町は運搬するんでしょうか。ちょっとよく見ても分からないんですけど。

（JR 東海/太田垣課長）

高森の事業については、当初説明している時は、9月いっぱいだと聞いておりますけれども、詳細については町に確認したいと考えております。

（寺沢委員）

すいません、予定があって、ある程度発表があったように認識しておりますけど、今ちょっと私が忘れてしまったのか、確か予定表がありましたよね、高森町は何年何月までって言うことが。

（JR 東海/太田垣課長）

はい、当初は9月いっぱいという予定でございましたが、今どうなっているかは、町に確認してみたいと思います。

（寺澤委員）

いやそれは、自動的に高森町が、「はい、こうします」というふうに一方的におっしゃって、それで終わりという事ではないと思うんですけども、調整があつてしかるべきですよ、松川町と。

（JR 東海/太田垣課長）

ちょっと、今日高森町の方もいらしてないもんですから、また高森町と松川町と調整という事になるかと思えます。

（黒澤委員長）

はい。住民の皆さんにとっては、どこの事業でもJRさんの発生土の運搬という認識になるかと思

うので、そこら辺が先ほどから言われている事だと思いますので、よろしくお願いします。JRさん何かありましたら。

(JR 東海/太田垣課長)

この表では、伊那インターと上赤須等について書いてありますが、また新たな発生土置き場へ運搬するような話になりましたら、引き続き、都度協議させていただきたいと考えております。その中に、高森の時期についてもまた出てくるかと思っておりますので、よろしくお願いします。

(寺沢委員)

すいません、誤解のないように申し上げときますけど、新井地区を通過して、高森町行くまでは松川町の範疇でございますのでそこで影響を受ける人たちがいっぱいいる訳ですよ。下から、中川から入ってきて、高森町へずーっと抜けてく台数、これも台数的には非常に大きい台数ですよ。新井の町の皆さんほんとにこれ苦慮しているわけで、それで私高森町の事どうのこうの言ってる訳じゃなくて、松川町もそれだけ大きな影響を受けているという、そこら辺はご理解いただかないと、という事で、はい、結構です。

(黒澤委員長)

寄り添うという事で、住民の皆さんにとってはどこの管轄の事業とは関係ありませんので、またよろしくお願ひしたいかと思ひます。それではほかに、北原さんどうぞ。

(北原委員)

すいません、もう1点だけJRさんお聞きしたいんですが、今後その台数が増えてくる車両についてはですね、地元の車両と、他県から来る車両ってのはどのくらい比率なんでしょう。現実、伊那工区の関係については、大鹿へ戻るっていう事は、例えば宮坂土建の車は岡谷の車ですが、今現在遅い時間に来ます。153号線、岡谷から、おそらく他の車はもうすでに高速乗って、先頭の車が走ってる頃に後から行くような車がありますよね、要するにそれだけ時間差があるっていう事と、彼らは要するに地元、大鹿へ帰る訳じゃないから、そういう振り分けをすればもっと効率よく、頭の時間の車とそういう仕分けをするっていう形で、地元の車を利用されたいんじゃないですか。どっちにしたってもう溜まりに溜まったもの、運転手も言っていましたよ、「もう運ばんと何ともならん」という事は彼らも言ってる状況ですよ。旅から来る車こそやっぱりその土地勘が、なかなかそれを覚え込むのが非常にしばらくかかるだろうと、小渋線なんて行ってみりゃ急ブレーキの痕ばっかじゃないですか、あれだけ道を広くしたって、あれだけの急ブレーキ踏むって事は、何かかがやっぱり運転手も危機感を感じながら走ってると思うんです。だからやっぱり大鹿から出発して大鹿へ戻る車はもう優先に先積み出して、地元である、まあ私の近くにも運転手いますけども、家から出てく訳ですよ、で、家へ帰ってくる訳ですから、遅くたって構やせん訳ですよ。そうゆう要するに配車を上手く上手になさって行った方が、おそらくこれを長く何年もしっぽを切らずに、この工事が終了するまでの間、長くやられるよりも早い短期の間に、ぱっと集中して運ばさせる、そういうチャーターの仕方も色々工夫なさってると思います。

それとやっぱりその新井の町って言う、前々からの話がある中は国道153を使って、駒ヶ根のスマートインターから上がって行って、そういう車両を使えば、逆に駒ヶ根辺りのチャーターの車を引

っ張ってくれば、しっぽは遅くてもトータル時間は 2 回走りゃいい訳ですから、そうするとこう新井の町の車、例えば 40 台を 30 台、10 台を国道 153 から向こうへ上がれっていうような形を、配車とすれば出来ないはずではないと思うんですが、そういう工夫っていうのはやっぱり必要じゃないかなと思います。私も関西、九州まで行ってますけどもね、今、大津から、今東大阪へ工事やっていますが、そりゃえらいもんですよね、はっきり申し上げて。まあ産業道路だからそりゃもういたし方ないです。ああいう道だからこそダンプがそん中に混じっていっぱいいますよ、けども目につかない、ところがこういう田舎っていうのは、もう今徹底的にダンプっていうのは、目に付けられる訳だから、これはいずれにしてもこの数年間は耐えるしかないでしょ。

だからやっぱりそういう工夫っていうのは、JR さんはやってもらうべきであって、そうすれば例え 10 台減ったって大きなやっぱり理解っていうのを生むべきじゃないですかね。その比率はどのくらいまだ今後増えてくのかちょっと、県外の車両を使わないと運びきれませんっていう位の事が、まあどうせいずれにしろチャーターで下請けがやってると思うんですが、分かれば教えてください。

(JR 東海/水上分室長)

貴重なご意見ありがとうございます。どういう比率で引き受けてるかという所は、私共の方ではなくて、発注先の JV であります。大鹿で言いますと鹿島建設 JV と青木川工区を担当している飛島 JV、その 2 つの JV が一次下請けを通じて残土の運転手とかを確保しているという状況でございますので、比率がどうかという所までは把握はしておりません。これからダンプ台数が増えていく状況ですので、ダンプ運転手の方々が増えていくとなると確保していく必要がございます。

今おっしゃられたような配車、ルートや出どころ、それから最後の終わりという部分については、今の発生土活用先であります伊那や他のところとかでは、そういう調整してはいるんですけども、色々なところで時間の制限や通過する時間の制限があったりするため、必ずしも思うような状況にはなっていない部分もございます。ただ、今いただいているようなことは、これからもダンプが増えてくると、より効率的に回していく必要がある、ましてやダンプが増えてきて、行ったり来たりすると当然危ないので、今日はあのルート、今日はこのルート、というようなことはなるべくやりたくないと思っております。また、運転手の方がしっかりと安全に運行できるような方法を、これからも考えていきたいと思っております。答えにはなっておりませんが、これからもそのような点を含めて、どのように回すかというところを JV と共に検討していきたいと思っております。貴重なご意見ありがとうございます。

(黒澤委員長)

よろしいですか。

(北原委員)

あの、私の近くの運転手も、配車かけられたときは運び先が違うって事も言っておるんですが、やっぱり彼らは 1 日いくらという稼ぎ高も違うわけですよ。当然、飯田と高森じゃ違うと思うし、8 回出しているんですか、高森は。

(JR 東海/水上分室長)

いや、そんなには。

(北原委員)

そんなには走ってない。8回だと休憩時間ないですもんね。

(JR 東海/水上分室長)

はい、先ほど伊那へ2回という話がございましたが、頑張って2往復くらい。うまくスムーズに  
いって2往復半という場合もありますが、高森はたしか3~4往復くらいが限界だったと思います。  
すみません、ちょっと明確なご回答できません。

(北原委員)

4回しか走れないと。

(JR 東海/水上分室長)

そうですね、なかなか難しい。

(北原委員)

宮下町長、あの、竜東線っていうのは、新しい道、4月から通れるんですか。馬坂の所は。

(黒澤委員長)

小沢課長。

(小沢課長)

建設水道課の方から確認させていただきましたけれども、新しい馬坂の会所の前が今まで通行止  
めだったんですが、今通れるようになっておるそうです。ただ、その先が、まだ工事をやりますので、  
確実に全線開通という形にはなりません。交通規制がかかりますので、少しちょっとダンプがすれ違  
いが難しいのかなというふうには思います。ただ、竜東線を通してほしいというのは、高森町の方  
には要望はしている状況でございます。

(北原委員)

現実だって、以前はあの細い橋を渡って竜東線をあれだけのダンプが走ってた現実がありますよ  
ね。今、本当に1台も走らなくなる時があるので、やっぱり地元の車を優先するのか、JRさんのも  
のを優先するのかっていうことは難しいだろうけども、それだったって協議してもらってことは  
当然必要だと思うんですよね。で、分散させることにおいて、地元の車両にしてもそうですが、あま  
りその、住民の皆さんからダンプばっかっていうふうに見られないようにする方法だって、これはや  
っぱりJRさんにしても町にしてもテクニックじゃないかなと。どっちにしたって、出てる土は  
運んでゼロにしなくちゃ、この工事は終わらないわけですから、やっぱりそれはもう、いずれに  
したって、これを車は走っちゃいけませんって事は言えない以上は、どっかでやっぱり協議して  
いうのは必ずしや大なり小なりしていかないと解決にならないと思うんですね。ただ、事故だけは絶対に、  
やっぱりあっては、そこですべて終わりですから、それをやっぱり我々は常にこうやって強調して  
言いますが、出来る限り住民の皆さんだって、そういうところの地域の皆さんは意見として出して



って、協議にしてもらってことを前提に考えたほうが前進していくんではないかなと思います。なのでまあ、地元の皆さんは、まあそういうわけで、朝も遅くでも、夕方遅くでも自分のうちに帰るだけだから、そこに何時からダンプが走っちゃいかんというルート上にはないはずですよ、規制は。空で自分の車庫に帰るっていうことになれば。ですので、大鹿みたいに時間を制限されてるところは、積み出しの時間と走る時間が決められてれば、そこに誤差をつければ、しっぽの車が遅くても構わんわけじゃないですか。積み出しがそりゃ 5 時過ぎに積み出しっていうことはないと思いますがね、けど本当そのくらいにしていかないと、もう実際溜まったものは出せれんのでしょ。夜も走らないくらい、走らなきゃ。

まあ、そこらへんは協議をしていただくことが大事だと思います。

(JR 東海/水上分室長)

ありがとうございました。

(黒澤委員長)

はい、また、我々JVさんと直接お話しするということもできませんので、JRさんの方からスムーズな搬送ができるように、配車等の調整も出来る限りお願いをしたいと思います。また町の方としては高森さんとの調整等もJRさんとタイアップをしながら調整を頂きたいと思います。時間も経過しておりますですね、最大 2 時間ということで、9 時までを予定しておったわけでありましてけれども、9 時も少し経過しておりますが、最後にどうしても発言したいという委員のみなさん、いらしたらご発言していただいても結構かと思いますが。それでは、宮下委員。

(宮下委員)

それでは、ひとつ提案であります、その他ということをお願いします。松川町にはですね、南信州松川町くだもの観光協会という組織がありまして、現在 60 名弱の農家さん、皆さんが所属しております。県内外からの果物狩りや、オーナー制などのお客様を受け入れましてですね、松川町のファンを増やし、また、関係人口を増えるきっかけ作りに大きく貢献している団体になります。今回、この対策委員会に、この団体の代表者を推薦したいと思います。この対策委員会というか、事業もですね、本当に長期間になると思いますので、観光事業者、観光事業を実施している事業者の意見も大切になるかと思っておりますので、ご検討をお願いしたいと思います。

(黒澤委員長)

委員の推薦という事で、ご提案をいただきましたが、事務局いかがですか。小沢課長。

(小沢課長)

ありがとうございます。くだもの観光協会の関係は、非常にリニアのダンプの運搬と絡みがありますので、一人委員に加えていきたいというふうに思います。推薦の方がいらっしゃるという事ですので、この場でもしお名前言えるようでしたらお願いしたいなと思いますけど。

(宮下委員)

代表者の方、4 月以降ですけども、熊谷宗明さんになっておりますのでお願いします。

(黒澤委員長)

また、この委員の構成等については、事務局の方でまたきちんと対応をお願いしたいと思います。それでは、よろしいでしょうか。どうしてもという方いらっしゃいますか。それでは、会議事項については全て終了いたしました。長時間になってしまい申し訳なかったかと思いますが、わたくしの方の進行はこれで終了して、事務局の方へお返しをしたいと思います。よろしく申し上げます。

(小沢課長)

ありがとうございました。それでは4番のその他でございますけども、3月31日をもちまして、所属の役職を退任される方がいらっしゃいます。それに伴いまして本日の会が最後の方がいらっしゃいますので、この場でご報告をさせていただきます。

古町区長小沼哲夫様、上新井区長宮嶋英雄様、名子区長西元重人様、大島区長原田貞夫様、部奈区長唐澤功様、生東区長下澤洋貞様、松川町交通安全協会長北林誠様、松川町交通安全協会女性部長関真由美様でございます。以上でございます。ありがとうございました。

(黒澤委員長)

それでは今、発表いただきました各位委員の皆様方、各団体からという事で、大変ご苦労様でございました。私の方からも感謝とお礼を申し上げたいと思います。本当にご苦労様でございました。またぜひこの問題について、関心を持っていただいて、ご意見等ございましたらまた事務局等へご連絡いただければありがたいかなと思っております。本当にありがとうございました。

(小沢課長)

その他ほかに、何かそちら様から、何かご報告ありますでしょうか。なければ時間も9時過ぎましたので、閉会にさせていただきたいと思います。それでは、5番の閉会という事で唐澤副委員長お願いいたします。

## 5. 閉会

(唐澤副委員長)

長時間協議頂きましてありがとうございました。以上を持ちまして第20回目の松川町リニア中央新幹線建設工事対策委員会を閉会いたします。ありがとうございました。